

(2) 調査問題の活用について

調査問題は、学習指導要領の趣旨や内容、生徒たちが身に付けるべき力を具体的な設問の形で示されたものです。調査問題の出題の趣旨は育みたい力を、正答率は生徒の実態を、解答類型と反応率は学習の到達度とつまずきを把握することができます。そのため、調査問題を活用し、授業改善に生かすことは、これからの時代を生き抜いていく生徒たちに必要な力を付けるためには必然であると考えます。

調査問題の活用について、国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会において、「学力調査の問題を用いた授業を考えてみることも大切です」⁽⁵⁾と述べています。また、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考に「授業アイデア例」を提案しています。

佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書では、改善のポイントに、調査問題を活用し、知識の習得や数学的な見方や考え方を育成する授業づくりを挙げています。

これらのことから、調査問題を授業改善に生かすためには、誤答傾向を考察し、つまずきを押さえ、調査問題を活用し、数学的活動を充実させた授業を行うことが大切であると考えます。

調査問題を活用するに当たり

本研究では、調査問題を授業において活用するに当たり、次の点に留意しました。

・判定基準を明確にすることで、身に付けたい力をはっきりさせる

学習状況調査から見える課題を評価基準と照らし合わせ、指導と評価の一体化を図りました。

・教科書の学習内容と結び付けた授業づくり

年間指導計画や単元計画を変更することなく、学習状況調査から見える課題と教科書の学習内容を結び付けた授業を行います。課題やつまずきによっては、「授業アイデア例」のように1単位時間を全て調査問題を活用した授業を行うことも考えられますが、今回は教科書の学習内容を基にして考えました。

・例を参考にして記述させ、その根拠となる事柄について数学的な表現を用いて説明させる

記述形式の設問によく見られる出題方法ですので、意識的に同様の活動を仕組みました。

今年度の研究では、調査問題を活用し、数学的活動の充実を図る詳細授業展開案及びワークシートを作成し、授業実践を行うこととしました。

《引用文献》

- (5) 国立教育政策研究所 『全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会資料』 平成27年9月 p.93